

令和3年度 第2回新潟市新バスシステム事業評価委員会 議事要旨

■日時：令和4年2月2日（水） 14：00～15：45

■開催方法：オンライン開催

■出席者（敬称略）

委員

樋口 秀（新潟工科大学 建築・都市環境学系 教授）
大串 葉子（嵯山女学園大学 現代マネジメント学部 教授）
鈴木 文彦（交通ジャーナリスト）
梅澤 克博（新潟県公認会計士協会）
能登谷 巖（新潟商工会議所 常務理事）
清水 彩子（一般社団法人新潟青年会議所）
後藤 岩奈（新潟市区自治協議会会長会議 座長）
山崎 智美（NPO 法人ワーキングウイメンズアソシエーション）
横尾 文子（NPO 法人まちづくり学校）

■議事要旨

1. 開会

2. 委員自己紹介

3. 議事

- (1) 前回の振り返りと本日の開催概要（頁2～頁3）
- (2) 現行運行事業協定の評価指標（頁4～頁17）
- (3) コロナ禍における市民意見について（新バスシステム改善目安箱）（頁18～頁20）
- (4) 令和元年度以降の新バスシステムに関する取組状況について（頁21～頁41）

【新潟市】

資料に基づき(1)～(4)について説明。

●「前回の振り返り」を踏まえた意見

- ・利用者数の減少した時間帯は把握しているのか。コロナ禍においても、本システムの根幹であるピーク時間帯における利用者数は増加傾向にあるのか。

⇒事務局：新潟交通からは土日の利用が特に減少していると聞いており、これを踏まえ先般のダイヤ改正が行われたものと考えている。また、ピーク時間帯については、テレワーク等の勤務形態の変化による影響は少なからずあるものと考えているが、詳細についてはコロナ分析業務の成果が整理でき次第、委員の皆様へ情報提供する。

●「現行運行事業協定の評価指標」を踏まえた意見

- ・利用者が減れば運賃の値上げなども止むなしであるかもしれないが、それにより利用者がさらに減少しサービスが低下していくといった悪循環となる可能性もある。そうならない方法を探っていければと思う。

- ・ウィズコロナにおけるバス交通の在り方は今後も大事なテーマとなる。事務局は交通事業者と連携しながら今後のことを考えてもらいたい。

●全体を通した意見

- ・最新のコロナに関する知見を織り交ぜて広報していくことは重要である。
- ・バスの持続可能な運営が必要であるため、今後も存続に向けた議論ができればと考えている。
- ・どの属性の利用者がコロナによって利用しなくなったのかを把握することは重要である。
- ・MaaSの取り組みを活用し、楽しく、使いやすく、乗りやすいバス利用環境を整えてほしい。

5. 閉会

以上